週刊読書人

毎週金曜日発行
本体 248円（税別）
株式会社 読書人 発行
東京都新宿区矢来町１０９
郵便番号162-0805
電話 03(3260)5791(代)
ＦＡＸ 03(3260)5507
振替口座 00150-9-57070
前金購読料50週11500円
http://www.dokushojin.co.jp

©株式会社読書人2013

読書人の贈りもの。
全国共通
図書カード
◆名画シリーズ◆
◆ピーターラビットシリーズ◆
◆ページシリーズ◆
www.toshocard.com
日本図書普及㈱　03(3267)2311㈹

上野千鶴子・竹井隆人公開対談（立命館大学）

「政治」を人々の手に

『デモクラシーを〈まちづくり〉から始めよう』（平凡社）刊行を機に

上野　千鶴子氏

竹井　隆人氏

「原発による〈まちづくり〉」の考察にはじまり、果たして地方のショッピングセンターが地元商店街をシャッター通り化させたのか、騒音オバサンを〈まち〉から排除できるのか、高層マンションを景観のために削ることはできるのかといった問題まで、現実に生じた出来事を踏まえて、〈まちづくり〉への具体的な提案を行なった、竹井隆人著『デモクラシーを〈まちづくり〉から始めよう』（平凡社）の刊行を機に、竹井氏と上野千鶴子氏との公開対談が、9月27日、京都の立命館大学・衣笠キャンパスで行なわれた（主催＝立命館大学先端総合学術研究科、共催＝平凡社・週刊読書人）。竹井氏の著書の根底にあるテーマは「市民の政治参加」「真のデモクラシーの実現」「自治的人間を育てること」である。二時間にわたって活発にかわされた討論を載録する。（編集部）

「私的政府」の導入

――竹井さんに概略・テーマを簡略にお話しいただき、つづいて上野さんから意見・質問等をいただければと思います。

竹井　簡略には申し上げられませんが（笑）、テーマは何か。私は政治学者ですが、〈まちづくり〉に関して、実際の現場で多くの経験を積んで参りました。そこから見えてきたことを、第Ⅰ部で事例を挙げながら述べています。また、〈まちづくり〉を進めて行く時、あるいは〈まち〉に関する課題を解決する時に、決まって出てくる言葉（手段）のひとつに「コミュニティ」があります。要するに、〈まち〉の成員（権利者等）の同意を集める際に、コミュニティ（仲良し）を基にした方策が取られ、それが最善の策として考えられてきた。そこには大きな欠点があることを示したのが第Ⅱ部です。〈まちづくり〉という言葉を用いていますが、結果的にはそれは国をつくることにも繋がる話になっています。どういうことかといえば、現状では、〈まち〉という地域社会をつくり、維持していくことと、「政治」とがまったく繋がっていません。「政治」というと、永田町の政争劇や個々の政治家が思い浮かべられがちで、「政治」をまるで他人事のようにとらえている人がほとんどです。そのように人々の手から「政治」を奪うシステムができあがっていて、それがこの国の〈まち〉のみならず社会全体に歪みを招いているのではないかと、私は思っているわけです。では「政治」を人々の手に取り戻すにはどうすればいいか。これを具体的に解説したのが第Ⅲ部の結論になっています。

上野　今日の公開対談のタイトルに「〈仲良し＝コミュニティ〉を問い直す」とあります。最近コミュニティ論が大流行りですよね。そうした現在流通しているコミュニティ論を、「仲良し＝コミュニティ」とばっさり切って、竹井さんは違和感を表明しています。それに対しては120パーセント共感します。細かい歴史認識に関しては、竹井さんとは食い違いもありますが、現在のコミュニティ論は、あったはずのない過去に依拠したほとんど妄想の域に達していると思います。「昔はよかった」「昔にかえれ」などという言説は成り立たないし、望ましくもない点では、認識を共有しています。ただ竹井さんが提示する代替案、あるいはその基にある理論的枠組みについては異論もあります。たとえば「自己統治（セルフガバナンス）」という言葉を使っておられますね。私の使ってきた言葉で言えば、「当事者主権」と重なる概念です。当事者主権の極限は自己統治ですからね。その自己統治の装置として、「私的政府」を竹井さんは挙げています。そして私的政府の基盤になるものとは「居住共同体」であり、具体的には「ゲーテッド・コミュニティ」（以下「GC」と略）であると言っている。実は、私はGCの住人です。極めてセキュリティがよいために排他性が強く、格差社会の象徴として評判の悪いタワーマンションに居住しています。そうしたGCを私的政府とすることを代替案として示している。これについて、最初に竹井さんから説明していただけますか。

竹井　GCを、今あるコミュニティに代替する装置として挙げる際に批判をよく受けるんですが、それは今おっしゃったように、格差社会の象徴であると捉える方が多いからだと思います。ただ私は、分譲マンションのGCがいいと言っているのではない。自治組織としての「私的政府」を考える際に、それを模倣、参考にする枠組みとして捉えたらどうかと提案しているのです。つまり、その枠組みだけあっても十全ではない。本書でも述べていますが、具体例を申し上げます。阪神淡路大震災の復興等で見た現場で、こういうことがありました。多くの分譲マンションが倒壊し、それを再生する必要が生じた。その時に「コミュニティのあったマンションは再興できた」といった訳知り顔のコメントが横行しましたが、実際にはコミュニティがあった、つまり住民同士の仲が良く、交流が深ければ深いマンションほど、その再生に向けての対立の根は深かった。つまり自治組織があっても、うまく機能していなかったんですね。コミュニティと言ってもそれが表面的な交流、親睦に終始し、住民は普段、理事会や理事長にマンションの運営の責任や業務を押し付け、その社会全体を考える集団的合意、つまり政治の契機が育っていなかった。だからGCが存在すればよしとするのではい。むしろ問題は、マンションの自治組織がすべての生活の共同的な機能を果たしていないことにある。今のマンションの自治組織が何を担っているのか。せいぜいゴミの管理や清掃、エレベーターの管理ぐらいである。それにもう少し大きな機能を持たせる。また、マンションの管理組合と同様に、市街地における町内会みたいな自治組織も、もっと政府化して政治的機能を強化し、既存の公的政府が行なうサービスにまでタッチしていくバージョンアップ、すなわち「私的政府」が機能して初めて、もう少し違う共同性が生まれてくると思っているわけです。

上野　そこまで拡張されると、どうしても待ったをかけたくなるんですが。その前に、この排他性を伴うGCを私的政府と呼ぶ根拠に、実際に私的政府が公共化していくプロセスがアメリカの歴史にはあり、それをプロトタイプにしているわけですね。私的政府はもともと、ある居住区に参入する人々の自治組織として成立したという話はおっしゃる通りで、目を開かされました。ただ私は社会学者であり骨の髄までリアリストですから、竹井さんの意見についていけないところがあるんです。マンションの管理組合＝私的政府が目下のところ共有しているのは限られたものです。ゴミの管理やライフラインに関わるもの（水・エネルギー）、セキュリティ。あと非常に大事なのは資産価値の維持。ある人が分譲マンションを「財産共同体／資産コミュニティ」と呼んだことがあります。それはかつてのコミュニティとは全く違う。ムラ共同体に象徴されるコミュニティの基盤は生産の共同に拠っていましたから、離脱できないために強制力があり、生活のあらゆる分野に及んでいた。しかし今の資産コミュニティは、資産の側面は重要でありながらも、生活の中の極めて限定的な要素を共有しているに過ぎない。そこがマンションの自治会に私的政府の概念を当てはめる時のひとつの条件であり、これを拡大されると困るわけですね。

資産アソシエーション

上野　今日、竹井さんとお話しをするので、用意してきた資料があります。GCの理念を空間化し、現実的に団地として建てられたものの設計図です。その特徴に、外部からの不審者が立ち入らない、閉じられた排他的な共有スペース（ガーデン）があります。子ど

社会学にはソシオグラムという概念があります。ある人が誰とどうつながっているかをマッピングしていく手法です。それをこの団地の住人対象に描きだすと、団地の中で孤立している人もいるし、大勢の人とつながっている人もいるなかで、居住の近接が条件では

すればいい。そうした集合体がいくつも多元的に重なっているのが現在の都市だと考えれば、GCで居住区完結し、そこの自治会を私的政府の単位にする、竹井さんの考え方にはついていけない気がするんですね。

竹井　いま、示された共有スペースの利用の仕方や限定性、団地に住む人の相関関係については同感します。ただ、現在の分譲マンションの住民の間で、おっ

の自治組織なりが担っていく。もしくはそこに住む人々がその社会を自ら運営しているという責任感を育てることのほうが重要ではないかと、私は考えるのです。

上野　建て替え問題に、内部で非和解的な対立が生じるのは、負担能力の格差が関わってくるからです。マンションが資産価値をめぐって一定の利害を共有した人達の集団だとするならば、資産価値を下げないと

っしゃる経済的特典を確保するための共同性が発揮されていないように感じます。私が申したいことは、それを発揮させる政治的手段が必要だということです。上野さんがおっしゃった団地の話は、実は日本社会全体の縮図でもあります。団地で共有スペースを作っても、住民は使わないし、適正に管理しない。同様に、国家の場合、ハコ物や高速道路を作るが、それ

人生が劇的に上向く片付け本の元祖《改定版!!》
新ガラクタ捨てれば自分が見える
カレン・キングストン著
田村明子訳
定価：670円
小学館
☎03(5281)3555
Ⓕ03(5281)1650

国宝「卯花墻」と桃山の名陶 展に寄せて（8面）

今週の読物

- ▽秋山駿氏追悼（勝又浩）……⑦
- ▽蜂飼耳・荒川洋治対談「いま、詩を読むこと」レポート……③
- ◇連載＝日常の向こう側 ぼくの内側⑬（横尾忠則）……③
- ◇連載＝『週刊コウロン』波乱短命顛末記⑲（水口義朗）……③
- ◇連載＝漢字点心(58)（円満字二郎）……③
- ◇連載＝活字シアター(510)（困難と闘い名著大著を刊行してきた冨山房の巻㉙）……⑦

今週の書評

＜4面＞
- ▽持田明子・大野一道編・監訳「ジョルジュ・サンド セレクション第9巻 書簡集」……（三枝大修）
- ▽酒井潔著「ライプニッツのモナド論とその射程」……（梶谷真司）
- ▽中村治著「洛北岩倉と精神医療」……（可能涼介）
- ▽リュック・ボルタンスキー／エヴ・シャペロ著「資本主義の新たな精神」上・下……（市田良彦）

＜5面＞
- ▽市川拓司著「こんなにも優しい、世界の終わりかた」……（美月レンカ）
- ▽高橋睦郎著「和音羅読」……（宮城徳也）
- ▽水野真理子著「日系アメリカ人の文学活動の歴史的変遷」……（逸見久美）
- ▽エドウィージ・ダンティカ著「地震以前の私たち、地震以後の私たち」……（塚本昌則）

＜6面＞
- ▽金井美恵子著「夜になっても遊びつづけろ」「猫、そのほかの動物」……（佐久間文子）
- ▽下川耿史著「混浴と日本史」……（井上章一）
- ▽福島泰樹著「もっと電車よ、まじめに走れ」……（ドリアン助川）
- ▽菊池清麿著「評伝 服部良一」……（伊藤強）

新渡戸稲造事典
佐藤全弘、藤井茂
新渡戸稲造研究の集大
『武士道』の著者であり、明治から昭和
かけて、国内外にわたり多面に活躍した
稲造。その先行研究の集大成として、多
点から光を当てた画期的な事典。詳伝、
目、詳細な年譜、写真等約280点を収録。
●5、8

やさしさの暴走
社会を変え、人を幸せにす
岡山慶子編著
本物のやさしさにはブレーキがない。や
が暴走して本物が生まれる！ 村木厚子
じめ、「やさしさの暴走」に生きる人々へ
タビュー集。
●1、3

星の王子さまからのクリスマス・メッセ
高橋洋代
物語に込められた真のメッセージとは何
献辞に挙げられた親友の名前と、「王子さ
〈B―612〉」を手がかりに読みとく、斬新
王子さま論！
●1、0

本のご注文は《e-shop教文館》へ！　http://shop-kyobunkwan.com/
教文館
〒104-0061 東京都中央区銀座
電話03-3561-5549
●価格は

ehescbook.com ハードで難解な超領域思考の書
楠元恭治
概念芸術の地平　芸術哲学のエチュー
九月刊　700頁　680
『哲学する日本』を読む＆河北秀也デザインの
アート／デザインを規制する概念を解き明かす芸術哲学の誕
山本哲士
哲学する日本　330
国つ神論　古事記の逆立解読　420
西欧哲学の地盤変え。古事記神話を国家から切り離す。画期的
●文化学シリーズ
ホスピタリティ哲学宣言　高　各150
◎吉本隆明の文学論
◎キモノの文化学
山崎正純
文学的身体と歴史　300
歴史の中でいかに文学的身体が生成してくるか、斬新な哲学的
アルフレド・L・アウスティン
カルプリ　メソ・アメリカの神話学　270
矢野雅文
日本を変える。　190
松下和夫
地球環境学への旅　380
吉本隆明
心的現象論 本論　並装541頁　800
吉本思想の真髄、世界最高峰の本質論思
＊ehescbook.com へ　ネット会員特典あり。
文化科学高等研究院出版局
FAX 03-5730-6084　ehescbook.com

シリーズ「自伝」my life my world
第25回アジア・太平洋賞大賞受賞！
文化大革命の真実 天津大動
王輝著 橋爪大三郎／張静華監修 中路
党内部から見た文革のすべて。四六判上製728頁 50